

# 頓珍漢素人俳壇

本学園の  
学生・教職員の方々から  
投句いただきました。

春の宵 辞書枕に 楽思想

多聞

思い出が 仄かに溶けゆく 『春の雪』

蒼猿

初午や かしわ手二つ 司書の道

楽葉

春眠や 読む手止まりし 夢の中

菜摘

鴨川にて 頁をめくる 春の風

朱鷺風

部屋ひとり 黙々準備 入学へ

陸郎

書を他所に 車窓流るる 八重桜

陽炎

暖かし 外で出迎え 新刊書

山吹

新線の 山に色付け 初桜

白酒

浜一面 硯すずりの如く 黒き海苔

雀宙

## 春の名句

春めくや

水切籠に

皿二枚

軽舟

### ●俳句の説明

俳句の世界は和歌と違い男性が中心で、与謝野晶子が表舞台に出る近代になっても、なかなか日の目を見なかった。この句はいわゆる「台所俳句」。すなわち女性の日常を詠んだもので、やがて女性が俳句の世界に進出を始める象徴的な句である。

春の  
図書館を  
詠む

この句と説明は  
本学の所蔵資料  
から

小川軽舟 著

『俳句と暮らす』

中央公論新社 2016

請求番号：911.304|Oga

本館 レファレンス